

いざりい

発行 平成8年1月5日
発行所 大洗町役場
〒311-13茨城県東茨城郡大洗町磯浜町6881-275
☎大洗(267)5111(代)
編集企画課
印刷 富士オフセット印刷(株)
☎水戸(231)4241(代)

(題字:八木玉峰先生書)



謹
賀
新
年

写真提供 大洗写真研究会:桧山有作 氏

新年あけましてあめでとうございます。
平成8年の新春をここに迎え、町民の皆様
方のご健勝を心からお喜び申し上げます。
併せて、日頃町政に対しして深いご理解とご
協力に、衷心より感謝申し上げます。

就任以来、常に町民の意見を基調に、創造
性と英知を結集しながら信頼される行政を基
本姿勢として取り組んでもまいりました。
おかげさまで、厳しい財政環境の中ではあ
りましたが、町民生活に密着した各種の施策
を展開し着実に実現してこれましたことは、
これもひとえに、議会と町民の皆様のたゆみ
ないご協力の賜ものと感謝申し上げます。

日本経済は、景気回復の足踏状態が長引く
など、厳しい状況が続いておりますが、本町
は公共下水道事業をはじめ町民生活に直結し
た道路、上水道など都市基盤の整備、更には
学校施設の整備や環境美化の推進、高齢化社
会対策など積極的に進めて来たところであります。

さて、新しい年を迎えては、公共下水道の
一部供用開始を始め、健康・福祉の拠点とな
る健康福祉センターの建設、大洗港の貨物旅
客専用埠頭の利活用促進、新しい大洗水族館
の建設、こうした豊かな教育文化の推進、更には、
防災体制の整備、社会福祉の一層の充実など、
町民が大洗に住む喜びを実感し、生きること
を誇りとする町づくりに向けて全力を傾注し
てまいる所存であります。

今後とも、町勢発展のため、町民の皆様方
のより一層のご理解とお力添えを心からお願
い申し上げ、併せて皆様方のご健康とご多幸
を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶と
いたします。

新年のごあいさつ



大洗町長 竹内 宏

今年

は子年。昔は夜に
なると、ネズミが
やローマ帝国が滅亡したのは、
ネズミがもたらしたペストの
ためだという説もあります。

一方、ネズミの仲間でも、ハ
ムスターなどの種類は、実驗
動物として医学の進歩には欠
かせません。

身近

な動物だけに、こ
とわざにもしばし
たのではないでしょ
うか。

天井裏を走り回り、チュウチ
ュウと鳴く声が聞こえたりし
たものです。最近は純粋な日
本家屋が減つてきため
か、家屋の構造が変わつてき
たからか、都会では天井裏を
走り回つたり鳴いたりしてい
るネズミは、少なくなつてき
るといわれています。しかも、
ほぼ全世界に分布しています。

ネズミ

は、数も種類も
多く、ほ乳

類の約半数、千七百種を占め
るといわれています。しかも、
繁殖力がおう盛で、一
回に二十匹の子を生む種類も
あります。

人間は、昔からネズミの害
に悩まされています。ノネズ
ミは農作物を荒らし、牧草地
の草の根を食べたりします。
イエネズミは貯蔵食糧を食べ、
ときには電線やガス管をかじ
て人間を困らせたりします。
また、下水道などの不衛生な
場所を通り道にするため伝
染病であるペストをもたらす

さて、子年は十二支のトッ
プ。昨年は、天災や事件の多
い暗い年でしたが、今年は気
分一新して、いい年になります
すように。



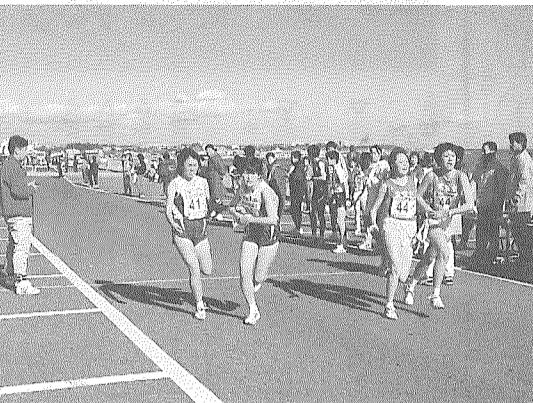
今年は子年

が、12月3日に行われました。毎年恒例の三浜駅伝競争大会で、今回で50回目を迎えた伝統と歴史のある大会に中学、高校、一般の各部門に114チームがエントリーしました。

微風快晴の絶好のコンディションの中、ひたちなか市漁村センター平磯・大洗海岸・サンビーチ海岸のシーサイドコースを一本のタフネスキーにチームの栄誉をかけて力走。

町内からは中学男子の
一中学校、南中学校(2チ)、
そして大洗水族館チームが参
沿道につめかけた大勢の皆
声援を受けていました。町
一ムの結果は、次のとおり
中学男子(33チーム中)
大洗南中 A 16位
大洗一中 19位
大洗南中 B 31位
一般男子2部 (51チーム中)
大洗水族館 45位

潮風のシーサイドコース 歴史と伝統をタスキにつなぐ 第50回 三浜駅伝競争大会



※平成7年度全国小学生人権書道コンテスト県大会最優秀賞を受賞。全国の中央大会に送られます。

人権思想の普及高揚を図るため、法務省と全国人権擁護委員連合会が毎年実施している「平成7年度全国小学生人権書道コンテスト」に、県内各小学校から30、893点の応募があり、厳正な審査の結果、本町から最優秀賞ほか、2名が入選。また、水戸人権擁護委員協議会からも3点の作品が入賞されました。

県大会最優秀賞	磯浜小6年	福地	里東
佳作	磯浜小6年	信太	美希
水戸人権擁護委員協議会	磯浜小6年	田山ゆかり	
銀賞	磯浜小5年	石崎真依子	
銅賞	磯浜小6年	田中	
		田佳	
磯浜小5年	米川	歩	

全国小学生人権書道コンテスト

第6回 健康まつり

★応募資格
大洗町に居住する方

★応募方法
ハガキに「標語・住所・
氏名を記入」か応募用紙
(係に用意してあります。)
を使用のこと

★締切日
平成8年1月31日(水)
(当日消印有効)

★応募作品はハガキ・応募
用紙いずれか1人1点と
いたします。

★優秀作品については賞状
及び記念品を贈呈

【問合せ先】
保健課保健衛生係
☎ 262-5111・内線123

年末恒例の「大洗町・水戸市常澄地区高年者忘れ演芸大会」が、12月14日町文化センター大ホールで開催されました。この演芸大会は、大洗ロータリークラブ（関根富美男会長）が主催し、高齢者の皆さんとふれあいの場をもち、相互の親睦を深めようと行われたもので今回が5回目。水戸市常澄地区の高年者の皆さんも加わり約600名が参加。開会式の後、演芸に入り、各クラブの代表20組37名が、日頃の習の成果を歌や踊りで発表しました。場から大きな拍手と声援を受けていました。また、アトラクションとしてスト出演の中川三江さんが「歌吟詠悲しい酒」を熱唱、会場を盛り上げました。された皆さんは、終始ごやかなかついた表情で、年末の楽しいひとときを過ごしていました。

年 の 瀬 の 一 日

大洗町・常澄地区高年者 年忘れ演芸大会で親睦 —大洗ロータリークラブ—

▼ 秋 彩
35mm F 5.6
橋本照三

茨城国民年金マスコット・キャラクター
「フクちゃん」

国民年金マスコットキャラクター
「フクちゃん」を抽選でプレゼント――

国民年金マスコットキャラクター
「フクちゃん」のぬいぐるみを
新成人5名の方に差し上げます。

ご希望の方は、官製ハガキに住
所・氏名・生年月日を記入のうえ
左記へお送りください。応募多数
の場合は抽選になります。当選者
の発表はぬいぐるみの発送をもつ
てかえさせていただきます。

▼応募対象者 今年の新成人
(昭和50年4月2日から51年4
月1日までに生まれた方)

▼宛先 平成8年1月末日
大洗町磯浜町6-8-1
(当日消印有効)

課 「国民年金マスコット
キャラクター・フクちゃん
プレゼント係

歌壇

勝山一美

An illustration of a Narcissus flower, also known as a daffodil. It features a large, yellow, six-petaled corona at the top of a long, thin stem, with several green, lanceolate leaves at the base.

道の辺のえのころ草は海霧の粒
子まといて耀めている
〔評〕 確かな眼で写生している。
「海霧の粒子をまとつ」という
発見は作者の技量であろう。
船渡 照沼とよ子

墮子紙なづきと桟の粒こいに氣きを保まふ
研とぎし剃刀かみそりを傍そばへに置おきて
新道 宮部 政勝
〔評〕 近年我々の生活より離れ
つある日常の生活詠。五・七・
五が上句、七・七が下句、その
照應は作者の力量の表れである。
ひととせの佳きも悪しきも人生
の一駒となしてゆく年いとし
いとし」と感懷した処がよい。
成田 杉山 富久
〔評〕 共銘を覚える歌である。
年も終ろうとするとき「ゆく年
いとし」と感懷した処がよい。
道の辺のえのころ草は海霧の粒
子まとて耀めきている

新しき港築きぬ湾内の春の潮に
船あまた浮ぶ

桜道

加藤 清

〔評〕二十四年間の評価に値する町政。ねぎらいの言葉は町民の感情として極めて自然である。この歌の場合、「手を握り」の具体性が更に熱い感動を呼び心魅かれるものを覚える。

二首目、「湾内の春の潮」と捉え、「船あまた浮ぶ」と結んで写生した構成は実に美事と云えよう。しかも結句は字余りでありますながら、この歌を手堅い重みで纏めあげて成功している。

波を蹴るマリン・ジエツトに
覗の客次々と乗り込んでいる
【評】 大洗に誕生した新しい
景をそのまま詠み込んでいる
歌はありのままがよい。
蔵前 鴨川

参道の草を刈りつつ遠き日の
の面影彷彿とたつ

【評】 歌は心の動きが言葉と
つて表現されるものだ。飾ら
に、純真に一首いい歌と思つ

祝町 河野み

【評】

君子蘭寒さに耐えてこの秋の
の増しつつ立ち上りおり
大貫新町 小野瀬イ
〔評〕 日差しの中に君子蘭の
がいつの間であろう、株の増し
いるのに驚きを持ったのである
慰靈塔に兄の名さがし見つけ
る文字黒々と眼に沁みぬ
新町 石田ち
〔評〕 異国に建つ慰靈塔であ
うか、やつと見出した兄の名は
い戦の日に作者を引き戻すの
波を蹴るマリン・ジェットに
覧の客次々と乗り込みている

角一 前原青
〔評〕 父君と暮鳥と御父友が
つたのである。作者にと
ては限りない慰めともなつて、い
度びも訪ねるといふのだ。

足を病む吾ともどもに子等と
て八溝山頂に深く呼吸す
寺釜 加部東ふ

〔評〕 作者は足が不自由といふ
家族ともどもの実感詠。

ようやくに癒えし幸せ噛みし
て二階への階そろそろのぼる

仲町 庄司千代
〔評〕 年老いた作者にとつて
足の癒えは幸せそのものである

